

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	
園名	北区立西が丘保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

バランス感覚を育む遊び

<テーマの設定理由>

今年度の園内研究のテーマを考えるときに、子どもの姿勢が崩れやすかったりケガをする子どもが多かったりすることから体幹が大切だと感じ、当園の特色の一つであるリズム遊びを活かし「バランス感覚を育む遊び」をテーマとして設定する。バランスは体だけでなく物を使った遊びでも見られることから、いろいろなバランス遊びを取り入れ、子ども達の興味関心をさらに深めていきたい。

2. 活動スケジュール

- ・それぞれ好きな遊びを見つけ、保育士や友達と一緒に遊ぶ中でバランスのとり方を考えたり、バランスを保つためにはどうしたらいいかを子ども達なりに工夫したりできるように環境を整える。
- ・友達同士でイメージを伝えあいながら、力を合わせて一つのものを作り上げられるように、年長児の遊びを見て刺激を受けられるようにする。
- ・外部講師（E-KIDS）に依頼し、体の使い方を教えてもらい、様々なバランス遊びを楽しめるようにする。

3. 探究活動の実践

・活動のための準備

部屋・・・ ゆらゆらタワー、積み木、ドミノ、ペタペタブロック、くみくみスロープ
カプラ、キャップタワー、巧技台、マット、ビリボ、バランスボールなど
園庭・・・ コンテナ、バスマット、カラースティック、牛乳ケース、ソフトブロック、
タイヤ、ボール、フープ、縄など

・活動中の子供同等を記載ください

- ・初めは玩具が揺れたり崩れそうになったりする様子を楽しんでいたが、だんだん友達とアイデアを出し合いながら置く場所や間隔を変え、どうしたらバランスを保てるか工夫する姿が見られた。
- ・カプラでは「こうしたい」という思いを友達と伝え合ったり、失敗しても友達と励まし合いながら高く積み上げることに何度も挑戦する姿が見られた。また度々年長児のクラスを見に行き、競争意識を持つ姿も見られた。
- ・園庭では様々な用具を組み合わせて構成遊びをする姿が見られた。
- ・体操で起き上がりこぶしや鉄棒をする時に、バランス遊びの玩具と照らし合わせられるように声掛けをすると、だるまのように手足を縮め背中を丸める姿が見られた。
- ・組体操でおうちやハートを作る時はおうちの屋根はどんな形か聞いたり、壁逆立ちの時は「ボール転がしの時の板は、どの位の角度だったかな?」と思い出せるような声掛けをすると、「こうかな」「この位?」と考えたり試したりする姿が見られた。
- ・外部講師の先生に教えてもらった「線の上をつま先立ちで歩く」「頭の上に物を乗せて歩く」遊びに取り入れ、上手な友達の姿を見ながらどうしたら物を落とさないで歩けるか聞くと「手は横にする」「前を見る」「小さく歩く」などの意見が出た。



4. 振り返り(振り返りによって得た先生の気づき)

初めは玩具でのバランス遊びが主であったが、作ったもので遊ぶうちに、どうすればバランスを保てるか自分で考えたり友達と話し合ったりする姿が見られるようになった。体を使った遊びでは保育士主導で行う形式のものが多かったが、保育士が上手に出来た例と出来ない例をやって見せ、何が違うかを考えてもらえるような声掛けをすることで、自分で考えたり試したりしながら進める姿が見られた。またすぐに諦めてしまう児も出来ている友達をよく見るよう伝えたり友達に聞くことを促したりすることで、子ども同士で教え合ったり、見て真似してやってみるを繰り返したりする姿が多くなった。それに伴い「出来ない」と保育士に伝える児が少なくなったと感じる。

また、子どもが自分のしたことを思い返し、楽しかったことや頑張ったなどの気持ちを言葉にする時間を設けることで、自分のしていることを意識したり、子ども同士で刺激を受け合ったり「もっとこうしたい」という思いをもつききっかけとなることを感じた。